

特集

Endocrine Emergency —内分泌救急読本

内分泌・代謝系の疾患は、救急医学領域のテキスト類でも必ず章・項目が割り当てられる、救急医の先生方にとっても重要なテーマと認識しています。その一方で、救急に軸足を置く雑誌・書籍で内分泌・代謝系疾患にフォーカスしたものは多くないと思われ、それは本誌「救急医学」も例外ではありません。実際、内分泌疾患や代謝系疾患をメインに据えた本誌既刊の特集号は、これまで存在していませんでした。なればこそ今回取り上げてみたい、と考えて企画したのが、この「Endocrine Emergency —内分泌救急読本」です。

救急の現場では、疾患ありき、診断名ありき、で診療が行われるわけではないでしょう。その一方で、救急初療で適切な評価や処置を施すには、緊急度や重症度も踏まえて種々の疾患を想起していく必要があると思われ、その土台となるよう特定領域の疾患を“深掘り”して解説する特集には一定の意義があると考えております。

近年の本誌では、そのようなコンセプトで皮膚・循環器・脳神経・精神といった領域を取り上げてまいりましたが、今回はとくに緊急性の高い疾患・病態も少なくない「内分泌系」に焦点を当てて、エキスパート・スペシャリストの先生方に“深く”，そして、あえて“狭く”ご解説いただきました。

下垂体、甲状腺・副甲状腺、副腎、そして糖尿病に関連する疾患・病態に関して、定義・概念・病態から、診察や診断の要点、非専門医に求められる初療と管理のノウハウ、専門的治療の概要まで、この1冊にまとめられています。日々の診療に役立つ特集号になれば幸いです。